

独自モデルで競争力

純利益の増加額 NEXT1000

2018年4～12月期に利益を伸ばした企業

順位	社名	業容	純利益増加額 (百万円)	純利益 (百万円)
1	キクカワエンタープライズ	木工機械や半導体の基板研磨装置を製造	1,019	1,206
2	アールピバン	現代版画を販売	900	1,503
3	テクノスジャパン	統合基幹業務システム(ERP)の導入支援	876	1,190
4	倉庫精練	長繊維織物の染色加工	769	922
5	デジタルアーツ	閲覧制限ソフト開発	641	1,418
6	和井田製作所	研削盤大手	618	1,043
7	サンユ-建設	建設・不動産業	506	764
8	アパールデータ	電子制御装置製造	502	889
9	アイレックス	通信制御システム開発	407	450
10	タクミナ	精密ポンプ・流体制御機器の製造販売	380	821

2018年4～12月期に純利益を増やした企業はどこか。日本経済のけん引役と期待される中堅上場企業「NEXT1000」を対象に、同期間の純利益増加額をランキングしたところ、ニッチ市場で高いシェアを握る企業や独自のビジネスモデルを持つ企業が上位に並んだ。景気の先行きには不透明感が強まっているが、競争力のある技術やサービスで着実に利益を伸ばしている。

1位 キクカワエンタープライズ 木材の加工・量産 自動で



無人で木材を加工する機械が伸びている

名古屋駅から電車とバスで約2時間。三重県伊勢市にあるキクカワエンタープライズには毎週のように海外からの訪問客がある。目当ては自国にはない高性能の工作機械。「中国や韓国からは毎月数回はお見えになつてますね」と創業家出身の6代目社長、菊川厚氏は笑顔を見せる。

キクカワエンタープライズは木工機械や工作機械の製造・開発を手掛ける。1897年の創業で、約230人の従業員の大半が地元の出身だ。売上高の3割は海外で取引先はロシアや東南アジアにも広がる。主力製品は建材など木材メーカー向けの木工機械。山で切り出した原木や大きな木材をのこぎりで切り、決められた大きさの角材や板材にする。中でも引き合いが強いのが、作業工程を自動化した機械だ。加工する前の原木の形状を内蔵するセンサーで瞬時に計測。様々な大きさの原木から同じ形状の木材を量産できる。途中で作業員が関与する必要はほとんどない。ただ木材を切るだけではなく、一度に複数の合板を

切断したり、板の表面を削って滑らかにしたりする機械なども手掛ける。複数の工程を合わせた生産ラインを受注することもある。切断や研磨は「日本初の自動丸のこぎり機」(菊川社長)を開発して以来の伝統の技。自動車部品などの

州(現中国東北部)に出荷していた。今では主に木工機械をロシアやインドネシアなどに輸出する。海外営業は菊川社長の担当で「1年の大半を海外出張に充てる」という。2012年に社名を「菊川鉄工所」から変えたのも、海外の取引先に分かりやすくするためだ。18年4～12月期の単独売上高は前年同期比で2・3倍の53億円、税引前利益は6・4倍の12億円に急拡大した。ロシアで合板の製造ラインの大型案件を受注したほか国内販売も伸びた。今後の成長に向けて菊川社長が注目するのが、あらゆるモノがネットにつながる「IoT」関連の技術。納入した機械を監視カメラで管理する仕組みや、消耗品を交換するタイミングを知らせるソフトなどの開発を検討しているという。

機械は販売後のメンテナンスも重要。「顧客を訪れる必要がなくなれば、生産性が向上する(菊川社長)。国内は住宅関連の市場縮小が見込まれるが、東南アジアなど海外の開拓に活路を見いだしている。

調査の概要 直近決算期の売上高が100億円以上の上場企業968社を対象(TOKYO Prime Market 上場企業を除く)。3月5日時点、2018年4～12月期の決算短信で純利益を続けて比較できる企業が対象で、純利益の増加額が大きい順にランキングした。前年同期が最終赤字の企業は対象外。原則として連結決算。



(注)売上高と純利益を続けて比較できる企業が対象

11	テクノクオーツ	半導体製造装置用部品	372	975
12	エステック	電動ネジ締め付け機	350	1,028
13	オーブドア	旅行情報サイト	332	941
13	アルファポリス	ネット小説などの出版	332	626
13	御園座	名古屋の劇場運営	332	353
16	朝日ネット	インターネット接続	322	706
17	クエスト	システム開発	303	375
18	ミュージアム	包装・検査機械商社	302	341
19	MS-Japan	人材紹介	298	938
20	ビーイング	建設業向けソフト開発	286	304
21	ウェルビー	障害者の就労支援	268	753
22	グリムス	電気料金の削減提案など電力コンサル	253	805
22	テセック	半導体検査装置開発	253	894
24	ダブルスタンダード	ビッグデータ解析	252	526
25	ピー・シー・エー	財務会計など業務用ソフト	232	371

2018年4～12月期に純利益を伸ばしたNEXT1000企業には派手さはないものの、国内外で着実に稼ぐ力を持つ企業が多かった。東京以外に本社を置く企業も目立つ。10位に入ったタクミナは大阪市に本社を置く、ポンプが主力の企業。独自の流体移送技術が強みで、韓国で電池メーカー向けに特殊精密ポンプの販売が増えている。国内は化学メーカー向けが好調で、2月には今期2度目となる業績予想の上方修正を発表した。

海外開拓テコに 安定成長を実現

12位のエステックは電動ねじ締め器具が自動車向けに伸びている。景気の減速が指摘される中国でも販売を増やした。韓国向けも伸びて純利益は前年同期比5割増となった。大阪府守口市に本社を構える。業種別では機械のほか、建設関連の好調も目立つ。20位のビーイングは本社が三重県津市。建設業界向けを中心とする業務用パッケージソフトを開発する。17年に発売したソフトが大手企業などに受け入れられて

21位 ウェルビー 障害者、職場定着まで支援



ウェルビーは障害のある人の職業訓練や求職活動、職場定着を支援する事業を手掛ける。主な収入は障害者の就労実績に応じて行政から受け取る報酬だ。支援をした人の就労が順調に増え、定着率も伸びている。職業訓練などをする事業所の数は18年末で65カ所。事業所では利用者にパソコンやパソコンの実務などの学習機会を提供し、写真就職後の相談にも乗る。支援を受けて就職した人が6カ月以上定着した割合は18年3月期で86%と前年同期に比べ3割伸びた。定着率が上がれば報酬の単価が上がり、利益率が上昇する。20年度には障害者の法定雇用率の引き上げが予定されている。大田誠社長は利用者の増加につながりそうだ」と話している。

7位 サンユ-建設 中規模建築、施工を合理化

サンユ-建設は東京都内や神奈川県内で主に中規模施設の建築を手掛ける。施工実績は、賃貸マンションや商業施設のほかオフィスビルや工場まで幅広い。狭い道路に面した物件の施工が得意で、都内では港区青山や渋谷区神宮前でも多くの商業施設を手掛けた。2018年4～12月期の連結純利益は7億6400万円と、前年同期(単独決算)から約3倍に増えた。首都圏の再開発工事の増加が追い風になっている。手持ち工事は豊富で、ビルな

どの大型案件が順調に進んだ。旺盛な建設需要を背景に鋼材や生コンクリートなどの資材費、労務費は上昇している。だが、現場の施工合理化により工事の採算悪化を防いだ。建設以外では不動産事業も堅調だ。住宅の分譲販売が伸びたほか、不動産売却益も大幅増益に貢献した。18年4月には行方建設を完全子会社化した。大手ゼネコン(総合建設会社)の協力会社として型枠工事を手掛けており、首都圏で営業を強化している。

3位 テクノスジャパン 独SAP製ERPに強み



テクノスジャパンは、会計や人事情報などを管理する統合基幹業務システム(ERP)の導入支援を手がける。独ソフトウエア大手SAP製のERPに強みを持ち、米国など海外事業も強化している。IT(情報技術)投資を進める大規模な製造業などの需要を取り込んでいる。2018年6月に米ンステム会社リリックを買収した。リリックはサービス業が多く使うソフト「セールスフォース」や「オラクル」の納入実績がある。テクノスジャパンはこれらのソフトを日本国内でも取り扱い、製造業に限らず顧客の獲得を進める計画だ。日本のIT人材不足に対応し、リリックのインドの開発拠点にいる技術者27名も連携する。